



2022年12月期 第一四半期 決算説明資料

2022年5月31日

株式会社やまびこ



INDEX

1. 2022年12月期第一四半期決算概要	3	3. カーボンニュートラルと当社の開発戦略	20
2022年12月期第一四半期総括	4	中長期の需要見通しと当社の開発戦略	21
2022年12月期第一四半期経営成績	5	① 排出ガス規制へのイノベーション	22
連結売上高の増減	6	② バッテリー製品のラインナップ	23
連結営業利益の増減	7	小型屋外作業機械（OPE）における当社手持ち・	24
セグメント別経営成績	8	背負い型作業機の開発戦略を表すイメージ	
セグメント別売上高実績（地域別）	9	③ アライアンスへの取り組み	25
四半期別業績推移	10		
2. 2022年12月期業績予想	11	APPENDIX	26
2022年12月期通期予想	12	会社概要	27
連結売上高の増減予想	13	やまびこの歩み	28
連結営業利益の増減予想	14	業績推移と売上構成	29
設備投資・研究開発費・減価償却費	15	事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）	30
業績推移	16	事業セグメント：農業用管理機械	31
株主還元	17	事業セグメント：一般産業用機械	32
やまびこの存在意義	18	国内生産体制	33
時代を超えて変わらない当社の強み	19	海外生産体制	34
		主な販売経路	35
		海外市場での販売とユーザー	36
		日本市場での販売とユーザー	37
		主なグループ会社の状況	38
		海外市場における関連指標等	39
		国内市場における関連指標等	40

1

2022年12月期 第一四半期 決算概要

2022年12月期第一四半期 総括

海外OPEは引き続きプロユーザーの需要が旺盛に推移した一方で、ホームオーナーを中心としたその他ユーザーの需要が減少。国内はOPE・農機が政府による経営継続補助金の反動により減収となり、産機も引き続き販売活動が停滞したことで低迷し減収。

市場	セグメント	当社状況 (現地販売)	当社販売状況
国内	小型屋外作業機械 (OPE)		政府による経営継続補助金の反動により販売が減少し減収
	農業用管理機械		政府による経営継続補助金の反動減に加えて、昨年末の一部商品の供給不足が継続したことなどにより減収
	一般産業用機械		新型コロナウイルスの影響に伴い、引き続き販売活動が停滞したことにより主に発電機の販売が減少して減収
海外	小型屋外作業機械 (OPE)	北米市場	プロユーザー向け販売が引き続き高い水準を維持するも、ホームオーナー向け販売が減少し減収
		中南米市場	政情不安・経済問題は継続も、新型コロナウイルスの影響により需要は堅調に推移
		欧州市場	新型コロナウイルスの影響による在宅時間の増加などにより高い需要が継続
	農業用管理機械	北米市場	引き続き穀物価格が高値安定する市場環境に支えられ増収
	一般産業用機械	新型コロナウイルスの影響により落ち込んでいた発電機の販売が回復し大幅な増収	

※「OPE」=Outdoor Power Equipment

2022年12月期第一四半期 経営成績

- 売上高は、国内は農機が昨年の補助金需要の反動により減少したことに加え、引き続き新型コロナウイルスの影響に伴い販売活動が停滞した産機が減少となり減収。海外は米州において農機と産機が増加した一方で、ホームオーナー向けのOPEが減少したことにより減収。
- 営業利益は主に国内における売上高の減少および原材料費の上昇などにより減益。それに伴い経常利益、最終利益も減益。

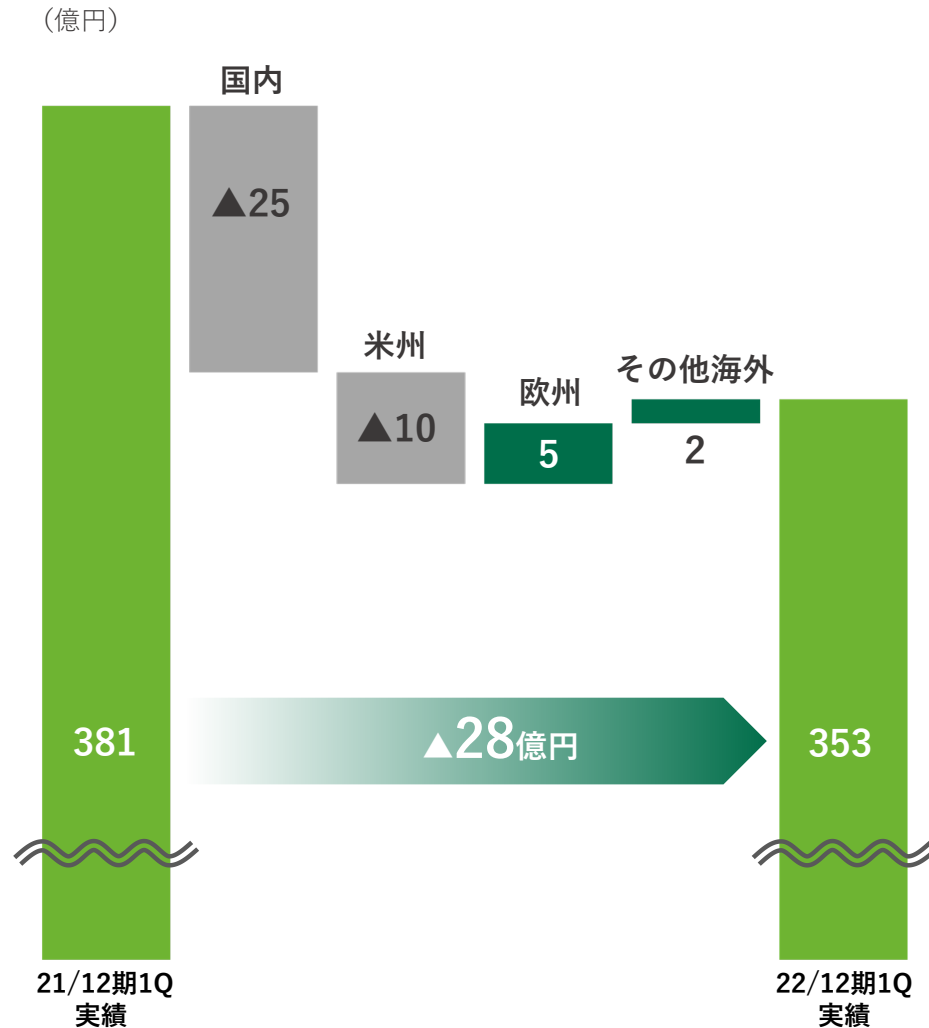
(百万円)	21/12期 1Q実績	構成比 (%)	22/12期 1Q実績		
			構成比 (%)	前年同期比 (%)	
売上高	38,153	100.0	35,348	100.0	▲ 7.4
売上原価	27,801	72.9	25,139	71.1	▲ 9.6
販管費	6,885	18.0	7,237	20.5	+ 5.1
営業利益	3,466	9.1	2,970	8.4	▲ 14.3
経常利益	3,948	10.3	3,543	10.0	▲ 10.2
親会社株主に帰属する 四半期純利益	2,866	7.5	2,797	7.9	▲ 2.4

※2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、影響は軽微と見て、前年同期比については単純比較で増減を記載しております。

■ 為替レート

1ドル	当社レート	105 円	115 円	+ 10.0
	米国子会社 換算レート	106 円	116 円	+ 9.7
1ユーロ		128 円	130 円	+ 1.4

連結売上高の増減



国内

昨年の補助金需要の反動によりOPEと農機が減少したことに加え、新型コロナウイルスの影響に伴い引き続き販売活動が停滞した産機の販売が落ち込み減収。

米州

主力のOPEはプロユーザー向け販売が高水準を維持するも、行動規制の緩和に伴う在宅時間の減少や個人向け給付金の終了、物価高などによりホームオーナー向けの需要が減少して減収。

欧州

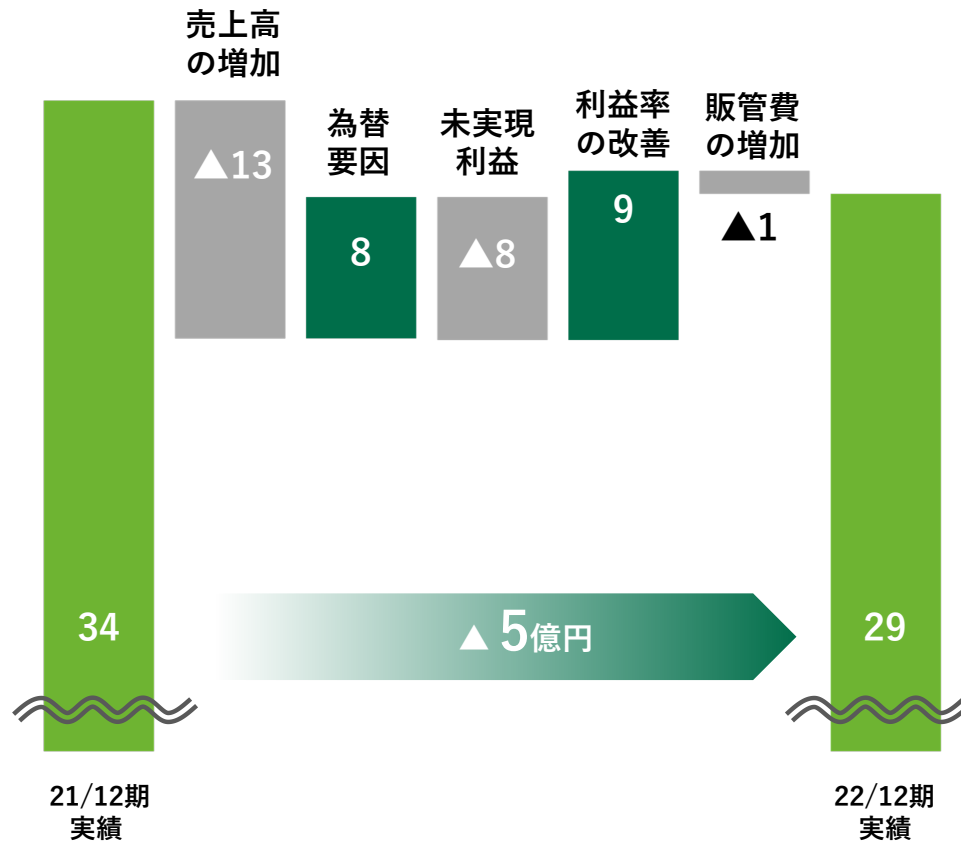
昨年から続くOPEの高い需要が継続し増収。

その他海外

アジアでOPEと農機、オセアニアで産機販売が増加したことより増収。

連結営業利益の増減

(億円)



売上高要因

売上高の減少による利益の減少。

為替要因

主に円安に伴う利益の増加。

未実現利益

積送品を含む在庫の増加。

利益への影響額

22年12月期1Q 10.4億円のマイナス
21年12月期1Q 2.8億円のマイナス
⇒前期対比7.6億円のマイナス影響

利益率

主に海外OPEで高収益なプロ向け製品の販売比率が増加したほか、国内の売上に占めるOPEの割合が増加したことにより利益率が改善。

販売管理費

主に海外の人件費の増加など。

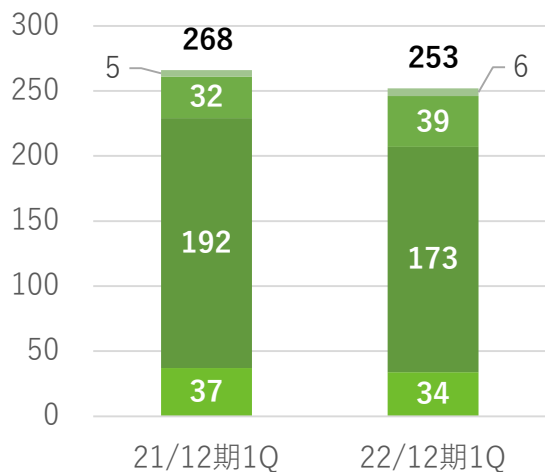
セグメント別経営成績

(百万円)	21/12期 1Q実績	構成比 (%)	22/12期		
			1Q実績	構成比 (%)	前年同期比 (%)
売上高	38,153	100.0	35,348	100.0	▲ 7.4
小型屋外作業機械	26,858	70.4	25,300	71.6	▲ 5.8
農業用管理機械	6,681	17.5	5,807	16.4	▲ 13.1
一般産業用機械	4,060	10.6	3,785	10.7	▲ 6.8
その他	552	1.4	454	1.3	▲ 17.7
営業利益	3,466	-	2,970	-	▲ 14.3
小型屋外作業機械	4,551	131.3	4,380	147.5	▲ 3.7
農業用管理機械	111	3.2	168	5.7	50.8
一般産業用機械	224	6.5	288	9.7	28.8
その他	116	3.4	99	3.3	▲ 15.1
全社共通費	▲ 1,536	-	▲ 1,965	-	-

セグメント売上高実績（地域別）

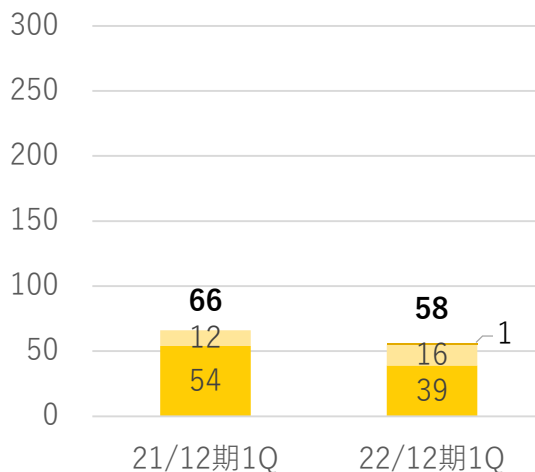
(単位：億円)

小型屋外作業機械（OPE）



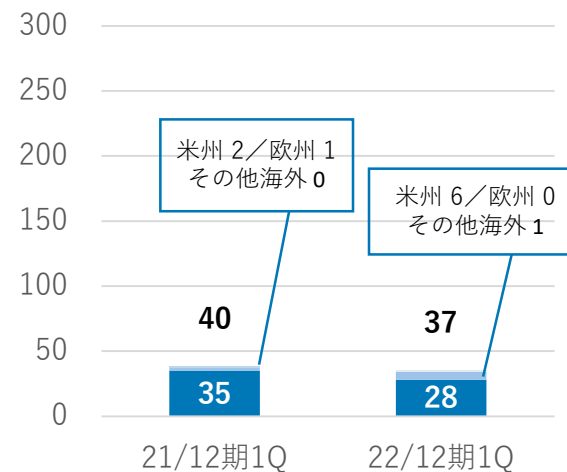
■ 国内 ■ 米州 ■ 欧州 ■ その他海外

農業用管理機械

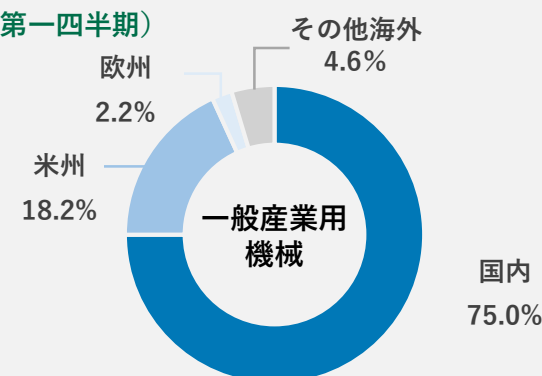
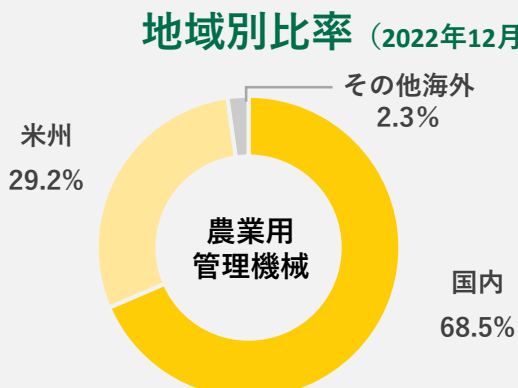
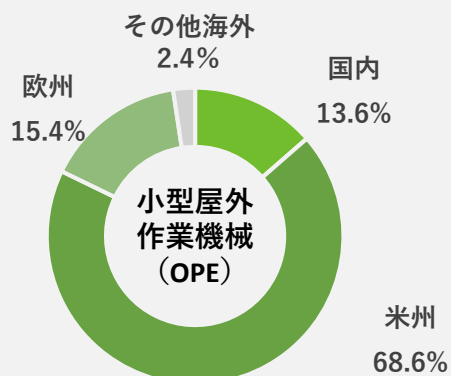


■ 国内 ■ 米州 ■ その他海外

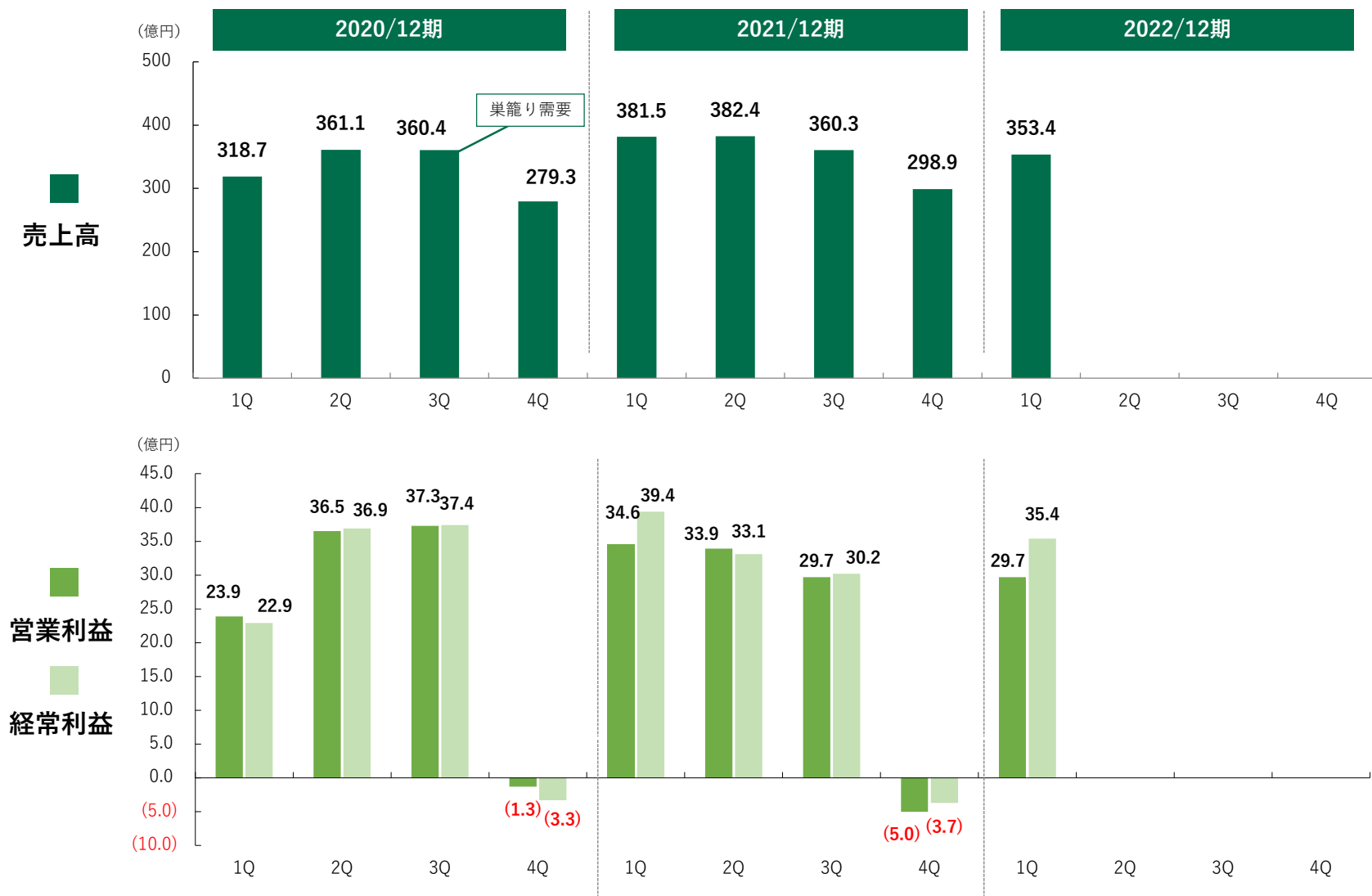
一般産業用機械



■ 国内 ■ 米州 ■ 欧州 ■ その他海外



四半期別業績推移



2

2022年12月期 業績予想

2022年12月期 通期予想

- 売上高は、海外はOPEの高い需要が継続することで更なる増収を見込む。国内は農機が昨年の補助金政策の反動により減収を見込む一方、産機は新型コロナの感染症対策と社会経済活動の両立が進むことで、販売活動の制限による落ち込みから回復し増収を見込む。
- 収益面においては、昨年につき原材料価格や物流費の高騰が利益を圧迫するものの、コスト上昇分の販売価格への転嫁や販売数量の増加に伴う生産性の改善により、前年と比べて営業利益、経常利益、最終利益で増益を見込む。

(百万円)	21/12期 実績		22/12期 予想		
		構成比 (%)		構成比 (%)	前年同期比(※) (%)
売上高	142,328	100.0	150,000	100.0	5.4
売上原価	102,881	72.3	105,700	70.5	2.7
販管費	30,117	21.2	32,600	21.7	8.2
営業利益	9,330	6.6	11,700	7.8	25.4
経常利益	9,913	7.0	11,400	7.6	15.0
親会社株主に帰属 する四半期純利益	7,500	5.3	8,500	5.7	13.3

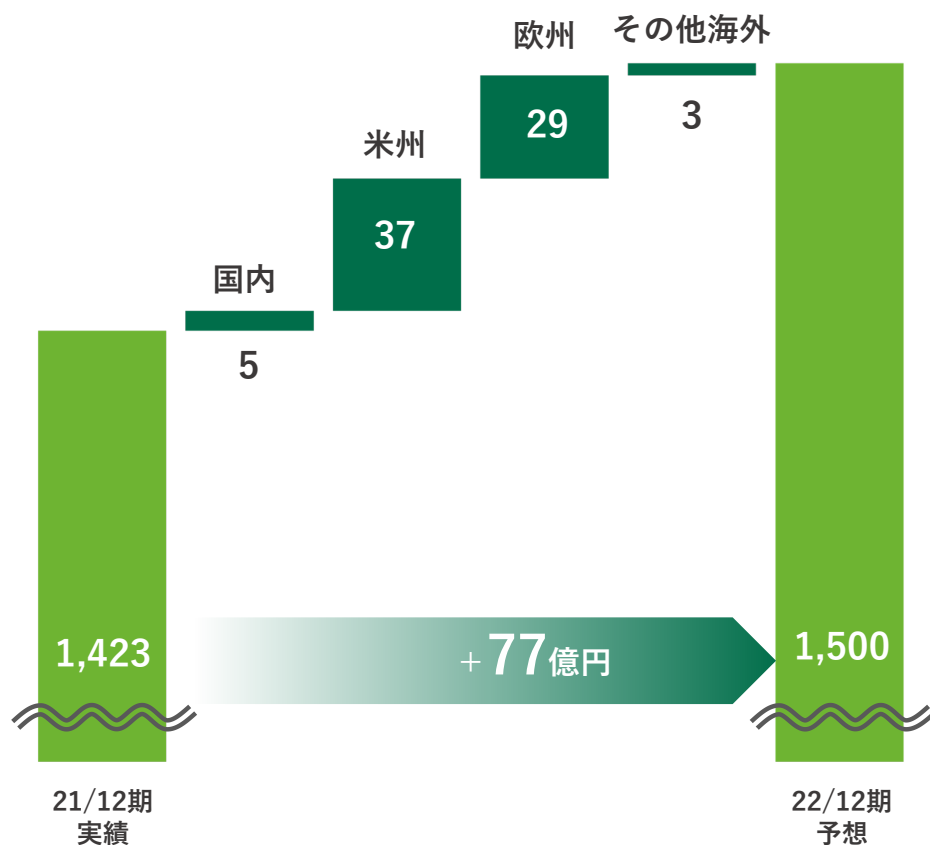
※2022年12月期の期首より「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号)等を適用しておりますが、影響は軽微と見て、前年同期比については単純比較で増減を記載しております。

為替レート

1ドル	当社レート	110 円	110 円	+ 0.3
	米国子会社 換算レート	110 円	110 円	+ 0.1
1ユーロ		130 円	130 円	-

連結売上高の増減予想

(億円)



国内

農機は昨年の政府による経営継続補助金の反動減により減収も、産機が回復し増収を見込む。

米州

物流や原材料調達などサプライチェーンの混乱が懸念されるものの、OPEの高い需要が継続することにより増収を見込む。

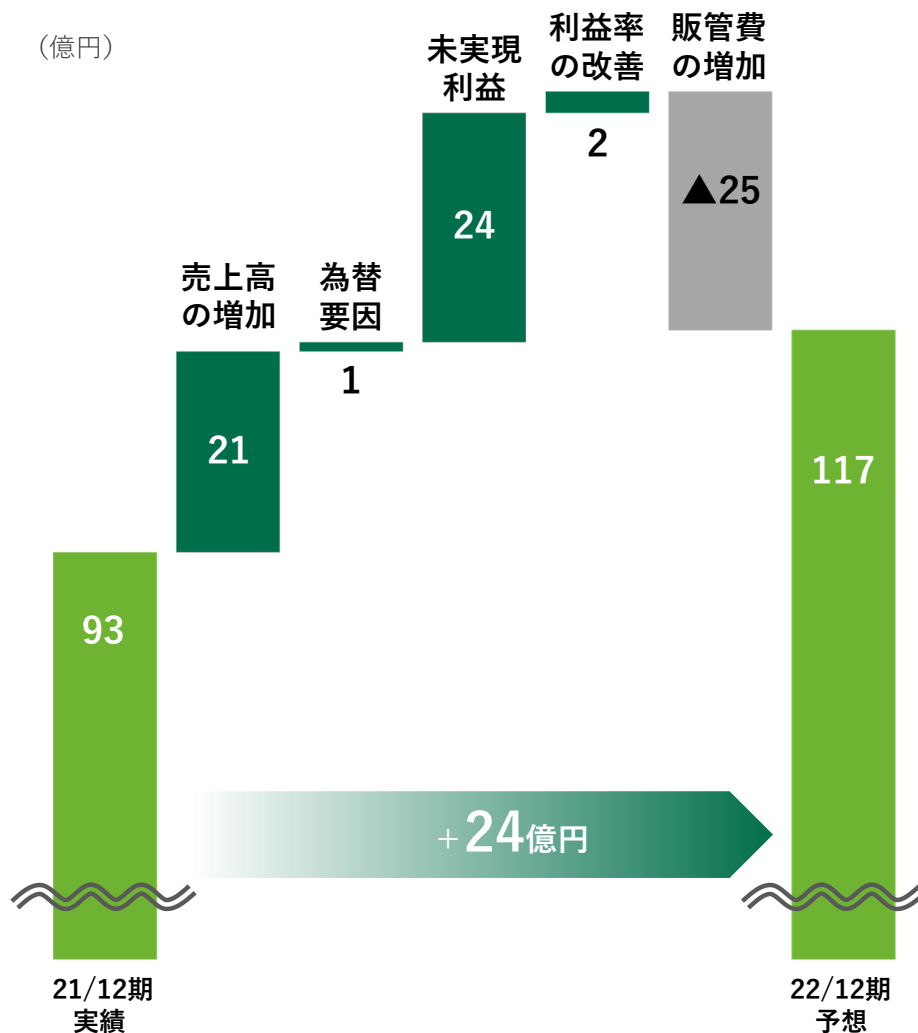
欧州

物流や原材料調達などサプライチェーンの混乱が懸念されるものの、OPEの高い需要が継続することにより増収を見込む。

その他海外

主にアジアのOPEが増加することにより増収を見込む。

連結営業利益の増減予想



売上高要因

北米および欧州でOPEの販売が増加することに伴う利益の増加。

為替要因

想定レートは前年と同水準を見込む。

未実現利益

積送品を含む在庫が若干の減少に向かう。

利益への影響額

22年12月期 5.6億円のプラス
 21年12月期 18.9億円のマイナス
 ⇒前期対比 24.5億円のプラス影響

利益率

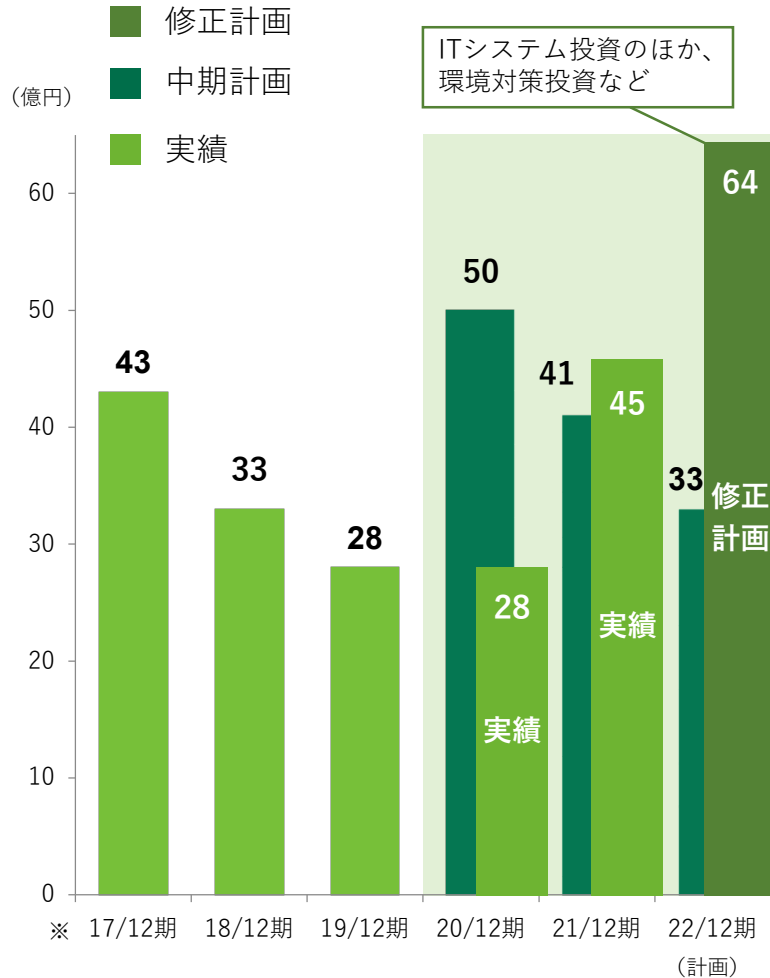
物流費や原材料価格の高騰によるコスト上昇分を販売価格への転嫁で補う。

販売管理費

北米市場におけるDC製品マーケティング費用に加え、国内外で営業活動が再開することに伴う費用の増加。

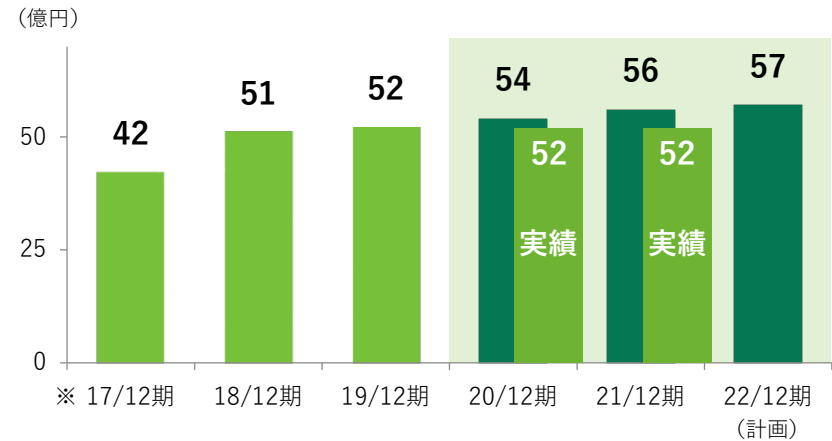
設備投資・研究開発費・減価償却費

設備投資

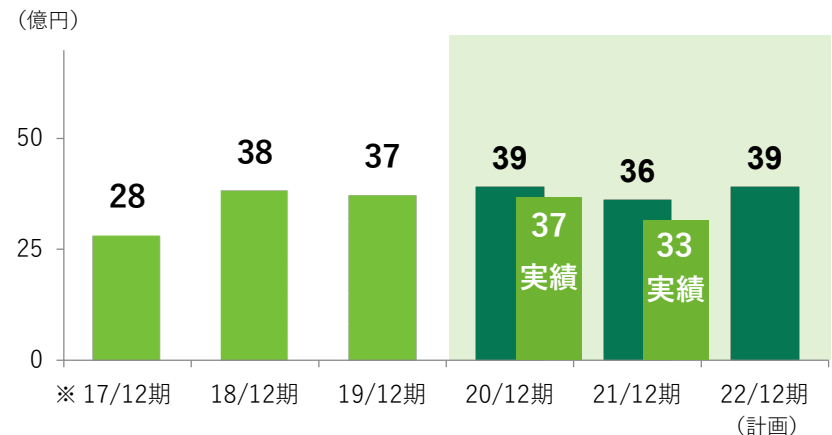


※17/12期は決算期変更のため、9ヶ月決算となります。

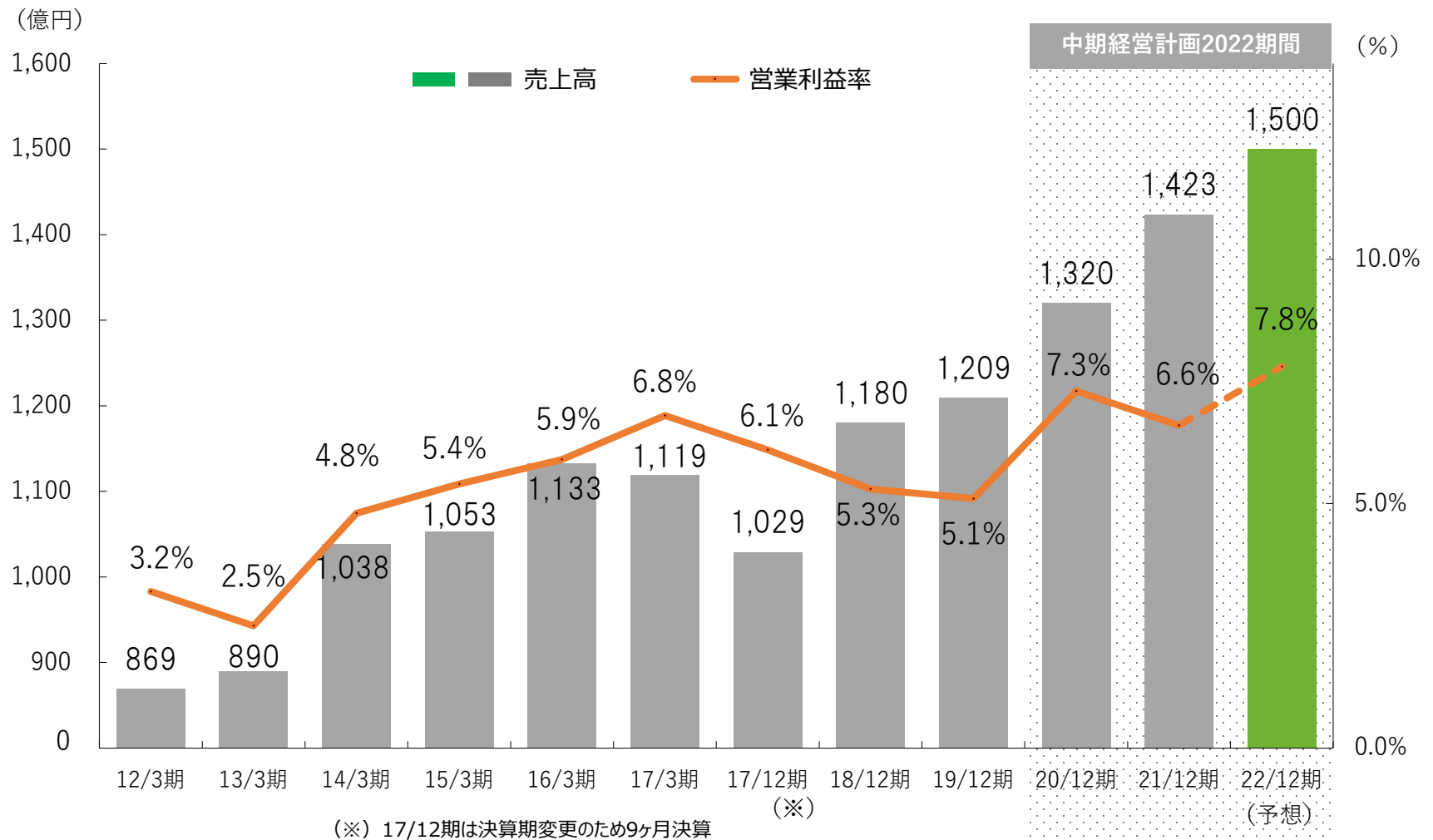
研究開発費



減価償却費

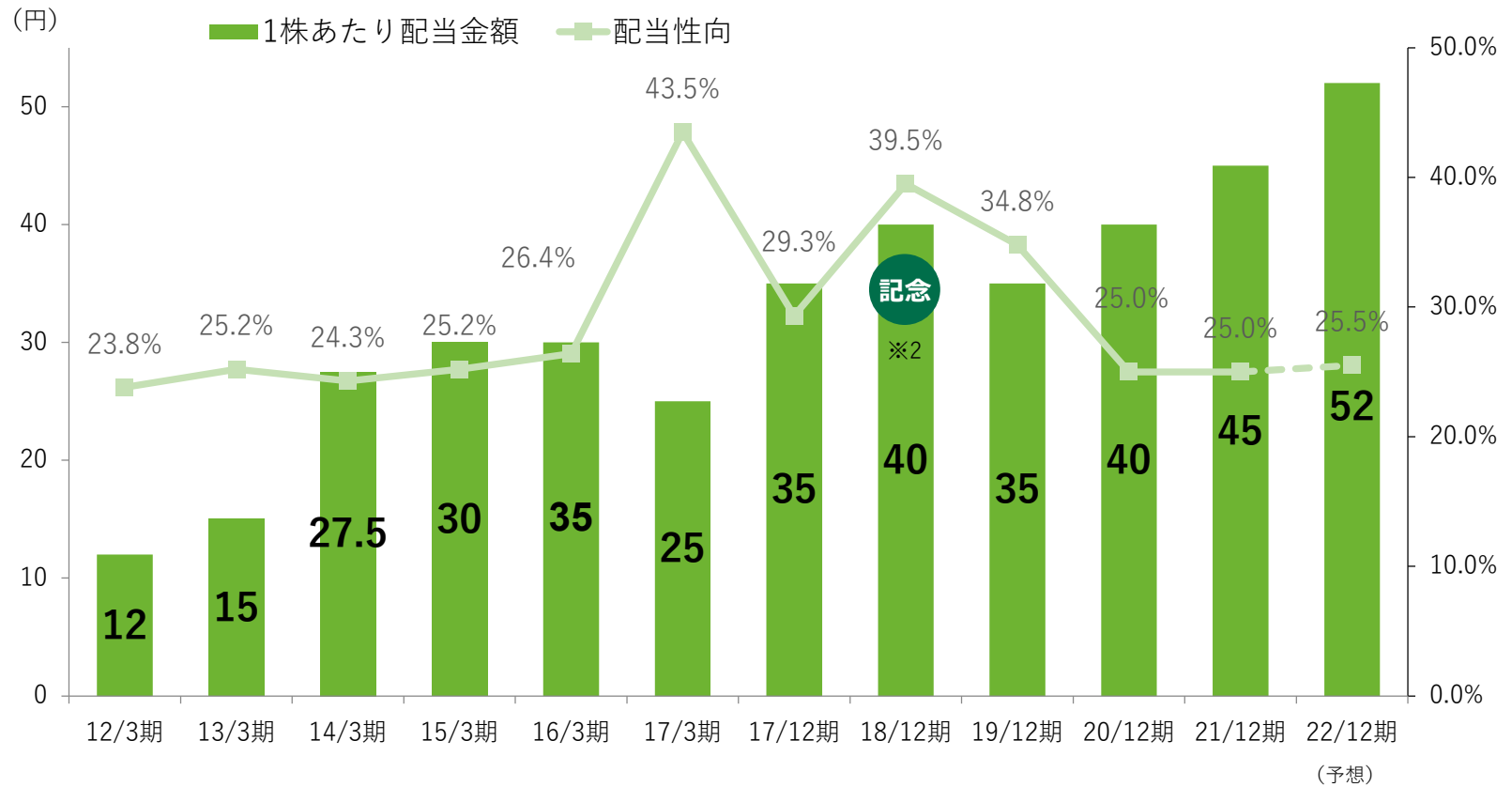


業績推移



株主還元

- 安定配当の継続
- 連結配当性向25%以上

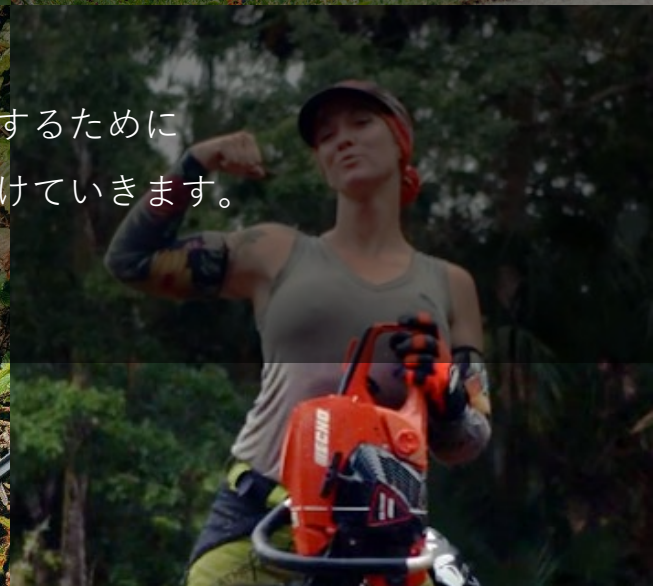


※1. 2015年10月1日付で株式分割を行っております。各期を比較しやすいように、株式分割考慮後の金額を記載しております。
 ※2. 設立10周年記念配当5円を含みます。

やまびこの存在意義



人と自然と
未来をつなぐ



豊かな環境と暮らし、笑顔あふれる未来に貢献するために
私たちは、安全・安心で良く働く作業機を提供し続けていきます。

時代を超えて変わらない当社の強み

研究・開発力

欧米の厳しい排ガス規制に対応してきた研究・開発力。米国EPA（環境保護庁）のエンジン認証数は 世界トップクラス

良く働く
作業機の提供

OPEから農機、産機までさまざまな現場でユーザーが最大限のパフォーマンスが発揮できる制御技術、操作性を徹底して追求

一貫生産体制

2ストローク・エンジンにおいて開発から材料調達、部品製造、加工、組立までの一貫生産体制を有する

Network

世界90カ国以上の販売ネットワークと顧客基盤

私たちは、人々の暮らしを支える生活インフラ作りに
必要不可欠な企業で在り続けたい

3

カーボンニュートラルと 当社の開発戦略

中長期の需要見通しと当社の開発戦略

需要見通し

エンジン製品の需要は排出ガス規制の動向や技術革新の影響に左右されるも、**プロユーザー向けの需要は根強く残る**

一方で、DC製品化は加速し、**エンジン・DC含めた市場規模は拡大傾向と見ている**

当社の中長期開発戦略

高効率
エンジン

① 排出ガス規制対応、かつ高効率・高出力のエンジン製品開発

電化

② 良く働く作業機としてのバッテリー製品の拡充

再生可能
エネルギー

③ リユースEVバッテリー、再生可能エネルギーを活用した製品開発

eFuel

③ eFuel（合成燃料）研究と実用

バイオマス

・高濃度エタノール対応エンジンの研究開発

水素

・構想中

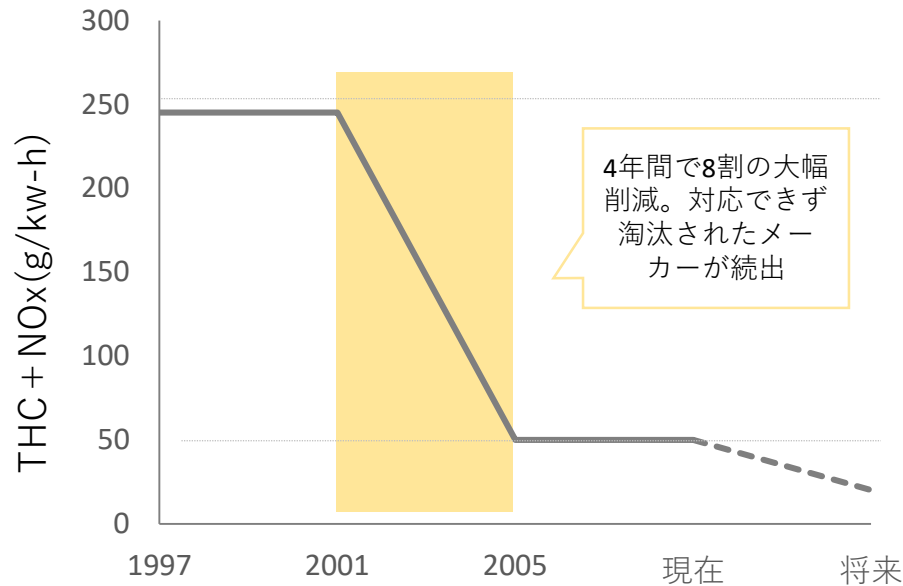
CCUS

・構想中

① 排出ガス規制へのイノベーション

長年にわたり培ってきた「技術力・開発力」は今後のマーケットでも発揮

EPA排出ガス規制の基準値の推移（排気量50ml未満）



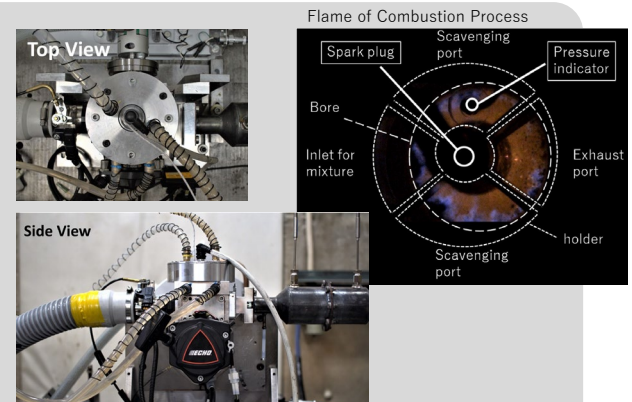
THC=全炭化水素 Nox=窒素酸化物

※EPA = United States Environmental Protection Agency

出典：Electronic Code of Federal Regulationsより当社作成

当社の対応

- 開発から資材調達、鋳造、金属加工、機械加工、組立まで世界的にも稀な小型エンジン製造の**一貫生産体制**と**開発力・技術力**を通じて、厳しい規制に対応し続けている
- EPA認証数は世界でトップクラス



次世代2ストロークエンジン

② バッテリー製品のラインナップ

グローバルDC製品の開発・製造

- 主力市場にある米国子会社ECHO incにバッテリーR&Dセンターを設置
- グローバルプラットフォーム確立



共通バッテリー



- 共通のバッテリーで使用可能な新たなバッテリー製品ラインナップを北米・欧州・日本市場で本年より展開
- 異なる作業ニーズに応えるべく、高出力・中出力の2種類を用意
- 独自の制御技術により、バッテリーの熱、充電、放電を管理することで、効率的な出力が可能

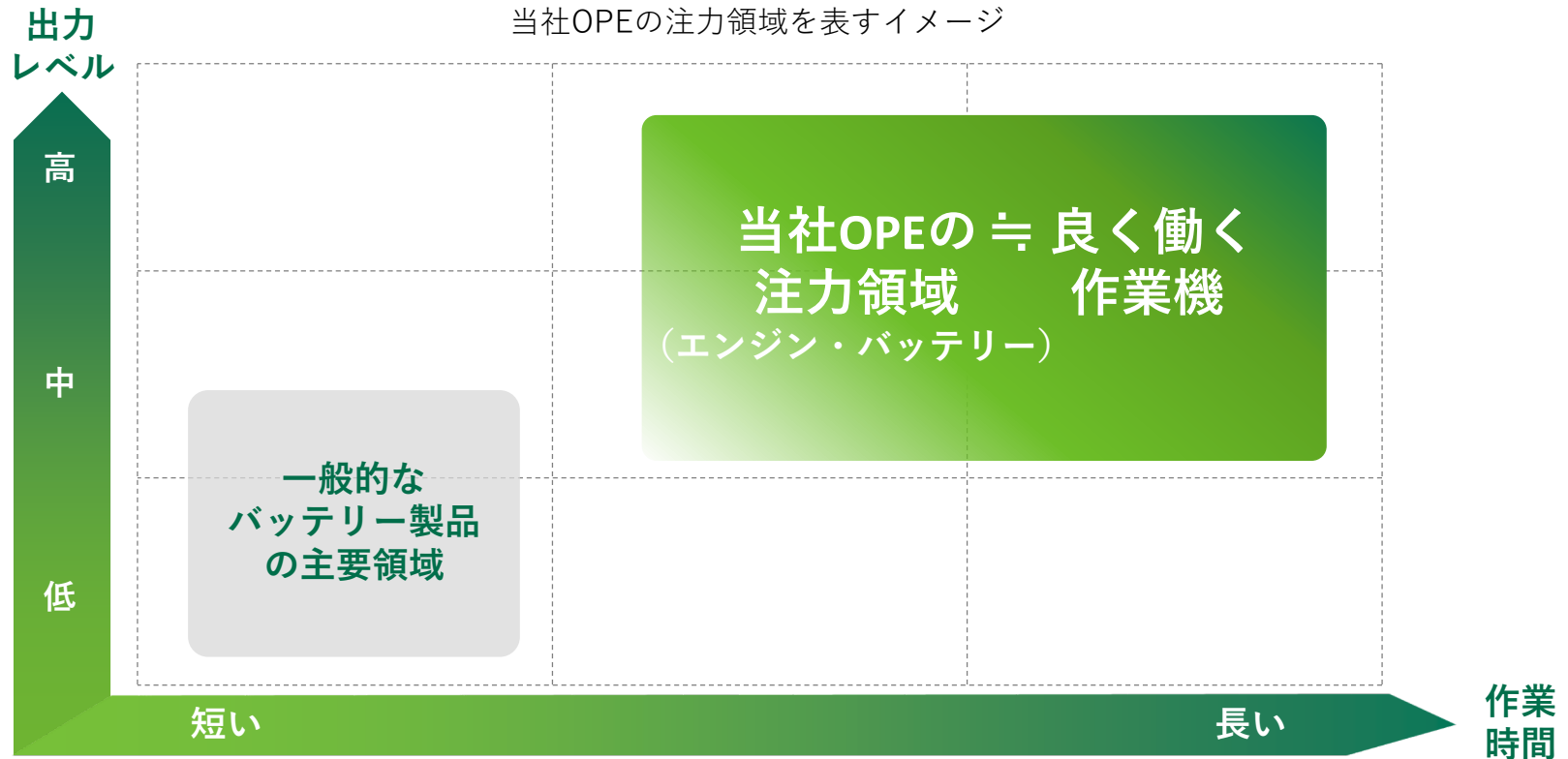
Xシリーズ

- 高性能で耐久性に優れ、プロユーザーも満足できる「Xシリーズ」で二系統のバッテリー製品シリーズを市場別に展開
- 昨年、アメリカケンタッキー州で開催された全米最大規模の庭園管理機械見本市「GIE+EXPO」で発表



小型屋外作業機械（OPE）における 当社手持ち・背負い型作業機の開発戦略を表すイメージ

高い「仕事量」が求められるユーザーや用途が、当社の注力領域。手持ち・背負い型の作業機分野で、排出ガス規制をはじめとするカーボンニュートラルに対応したOPEの開発・販売を推進



出力 × 作業時間 = 仕事量

③ アライアンスへの取り組み

eFuel（合成燃料）研究

eFuel Alliance への加盟



環境対応の合成燃料の普及などを目指すeFuel Allianceに加盟し研究を開始しました

イーセップ(株)と 共同研究開発契約を締結



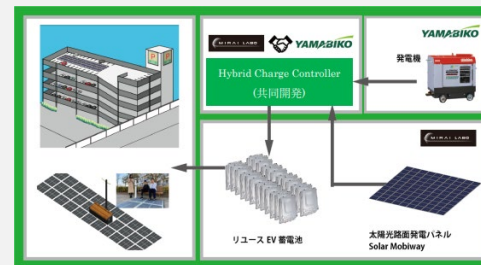
OPEエンジンに最適化なeFuelの開発を目指しています

低炭素・循環型社会の実現

MIRAI-LABO(株)と 資本業務提携を締結



「ハイブリッド自律型エネルギーシステム」や「屋外作業機の電動化ならびに移動型バッテリー充電システム」の開発・事業化など、「低炭素・循環型社会の実現」に向けた協業体制を強化します



APPENDIX

会社概要

会 社 名	株式会社やまびこ (YAMABIKO CORPORATION)
設 立	2008年12月1日
本 社	東京都青梅市末広町一丁目7番地2
売 上 高	142,328百万円 (2021年12月期連結)
資 本 金	6,000百万円
決 算 期	12月31日
連 結 子 会 社 数	15社※ (国内6社・海外9社/2021年12月末現在)
従 業 員 数	3,462名 (2021年12月末現在/連結)
上 場 市 場	東京証券取引所プライム
証 券 コ ー ド	6250
発 行 済 株 式 総 数	44,108,428株 (2021年12月末現在)
単 元 株 式 数	100株

※持分法適用関連会社2社を除く

やまびこの歩み



世界初となる手持ちブロワに加え、国内初の背負式刈払機やスピードスプレーヤなどを開発



2000年代の排出ガス規制強化・業界再編を経て、歴史と実績のある2社によって2008年に持株会社を設立、2009年に両社を吸収合併し誕生。経営基盤強化とシナジー効果の発揮により、持続的成長を目指して設立



株式会社 共立

設立 1947年 (昭和22年)



株式会社やまびこ

持株会社設立 2008年 (平成20年)

共立・新ダイワを吸収合併 2009年 (平成21年)

新ダイワ工業株式会社

設立 1952年 (昭和27年)



電動チェーンソーを経て、世界初となる混合式4サイクルエンジンやマルチ発電出力などを開発

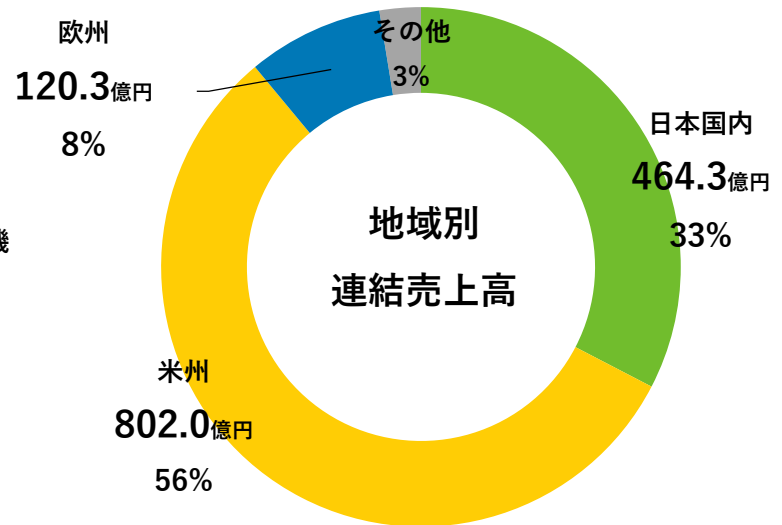
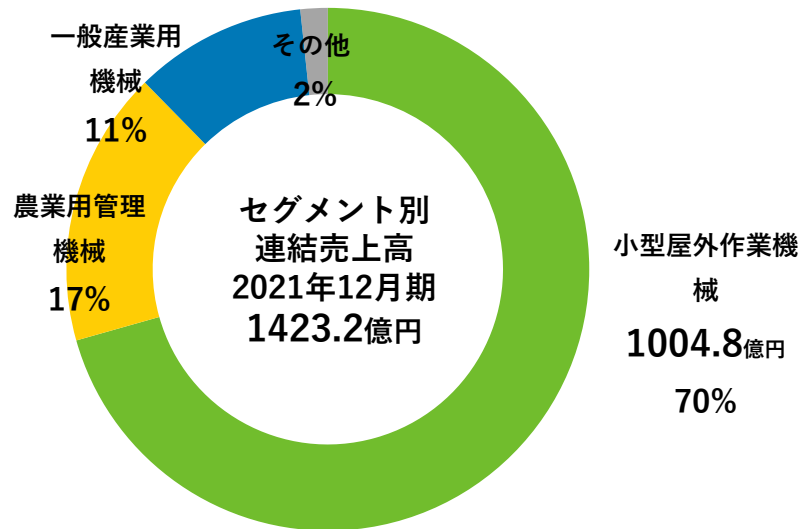
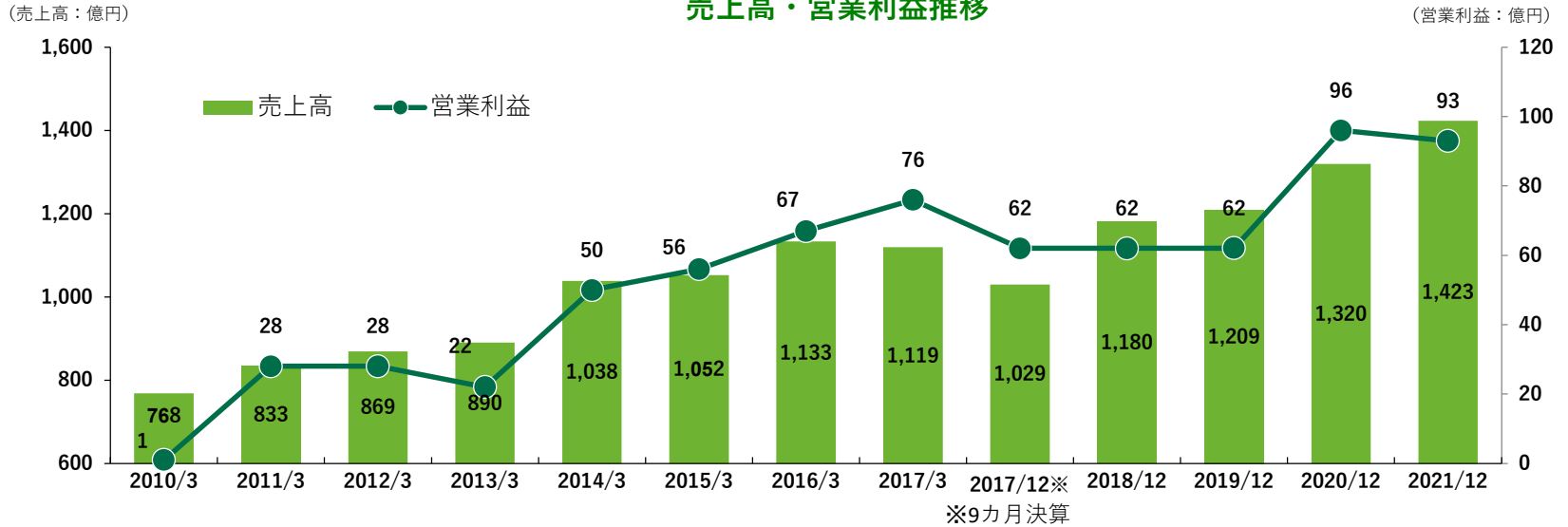


社名の由来

山の神様である「山彦」を社名に掲げ、自然と環境の育成、整備への貢献を理念に持つ会社姿勢の象徴とする

業績推移と売上構成

売上高・営業利益推移



事業セグメント：小型屋外作業機械（OPE）



売上高構成比

70.6%

（2021年12月期）

主に「手で持つ」「背負って」使用する
小型エンジンなどを搭載した
機械およびロボット芝刈機の製造販売



パワーブロワ



チェンソー



ヘッジトリマー



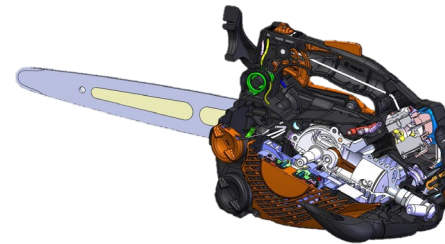
刈払機



ロボット芝刈機

技術的な強み

世界最高レベルのエンジン開発力



高い製品
シェア

日本：30%以上
※当社調べ

高性能・高耐久・高品質エンジン

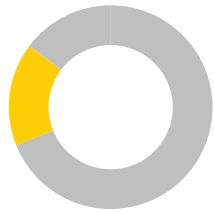
- 小型・軽量・高出力（手持機械に最適）
- 環境対応エンジン認証数、業界トップクラス

小型エンジンに必要な技術を保有

- 鋳造→熱処理→機械加工→組立
- 鉄めっき・放電加工

※Outdoor Power Equipment

事業セグメント：農業用管理機械



売上高構成比

17.1%

(2021年12月期)

国内における防除機械、
北米における
農作物収穫機械の製造販売



乗用管理機



スピードスプレーヤ



畦草刈機



ポテト収穫機（北米）

技術的な強み

培った防除技術にICTを融合し、 スマート農業を実現

送風技術・噴霧技術・散布技術

- 水田、畑作、果樹、施設栽培などあらゆる栽培体系において均一散布を実現
- 低騒音・大風量を実現する送風システムを開発
- 農薬飛散を低減させるやまびこノズルの自社開発

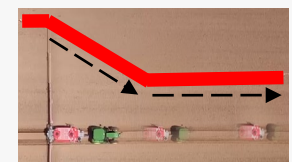


やまびこノズルの
噴霧状態（扇形状）
（平均粒子径
110~270 ミクロン）

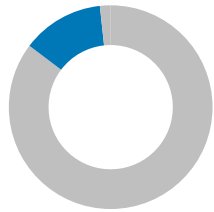


ICT

- 世界標準の通信技術（ISOBUS）を用いて、トラクタと相互通信
- 全球測位衛星システム（GNSS）により圃場内に適正な量の農薬を適正な場所にムダなく散布
- 設定した圃場の形状に合わせて散布エリアを自動制御する世界初の技術



事業セグメント：一般産業用機械

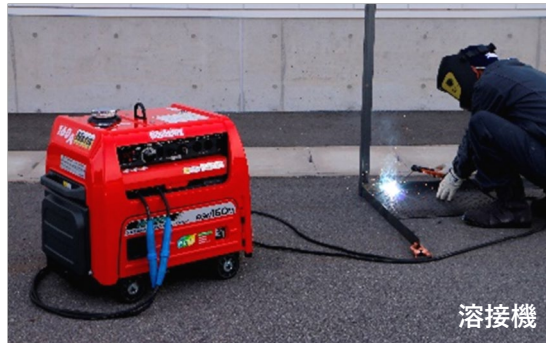


売上高構成比

10.7%

(2021年12月期)

建設工事・国土強靱化・
イベント向け機械の製造販売



溶接機

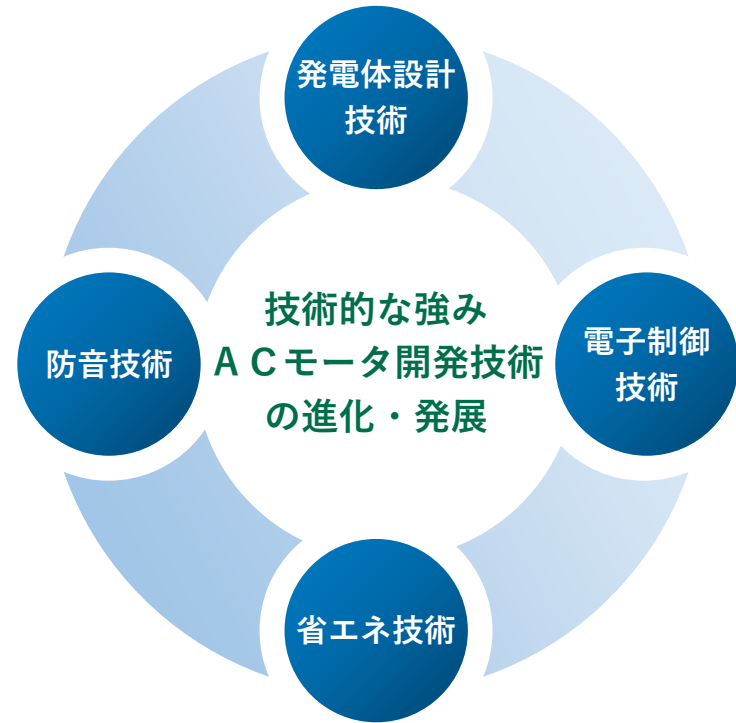


発電機



投光器

技術的な強み



世界初の三相/単相3線
切替なし同時出力可能
(米国特許・国内特許取得済み)



「ダブルECO」
低燃費・騒音排出ガス効果に優れた2つのエコ機能の開発

国内生産体制

- 生産事業所
- 生産子会社

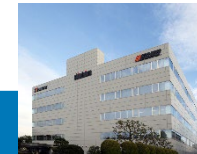
生産本部盛岡事業所

小型屋外作業機械の製造
 (機械加工・塗装・組立等)
 防除機の製造(板金・塗装・組立等)

※ 防除機の搭載エンジンは他メーカーからの調達



本社



生産本部横須賀事業所

小型屋外作業機械の製造
 (鋳造・金属処理・機械加工・組立等)



生産本部 広島事業所

小型屋外作業機械の製造
 (機械加工・組立等)
 発電機・溶接機・電動工具
 の製造(組立等)

※ 発電機等の搭載エンジンは他
 メーカーからの調達

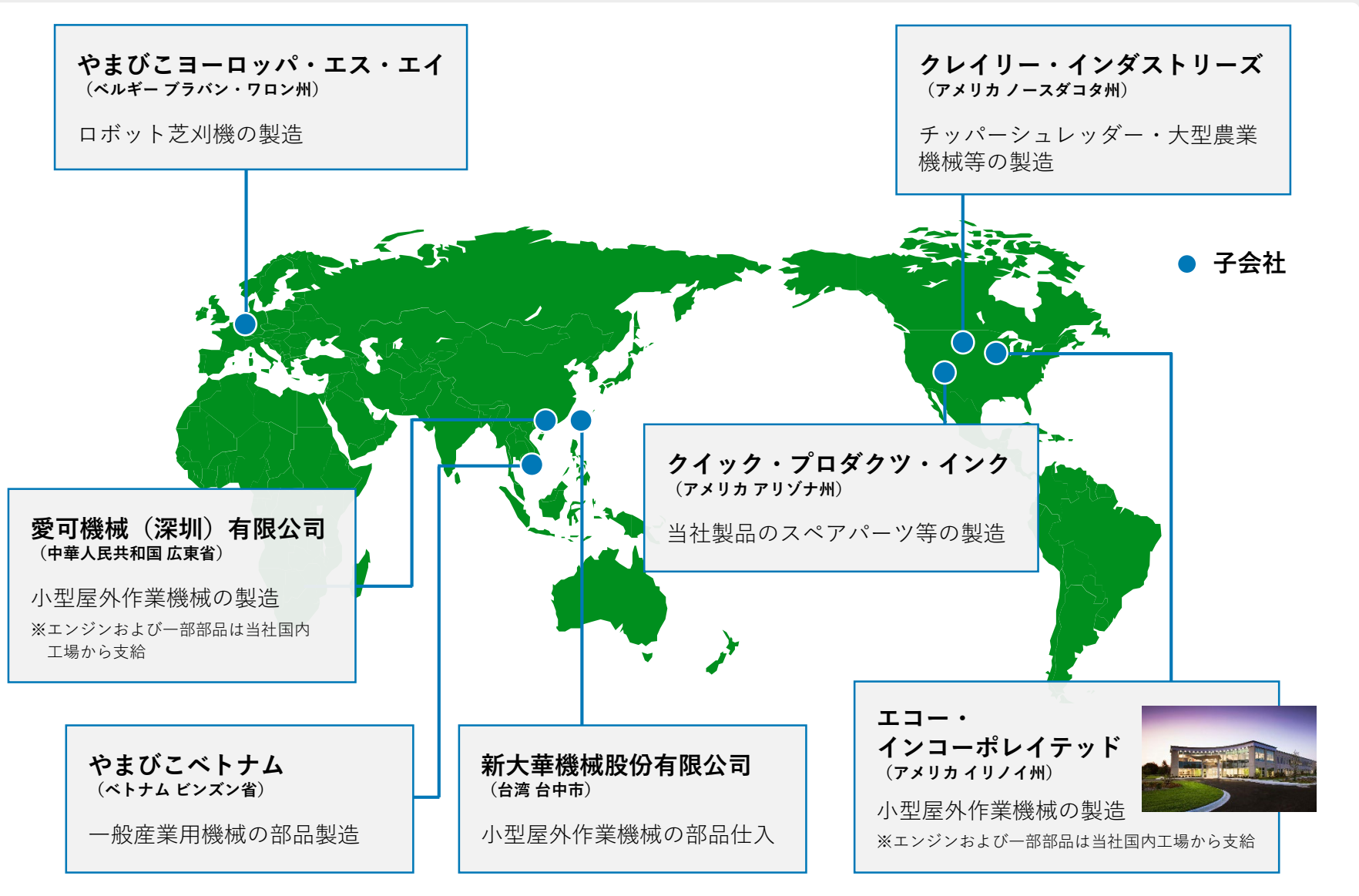


生産関連子会社

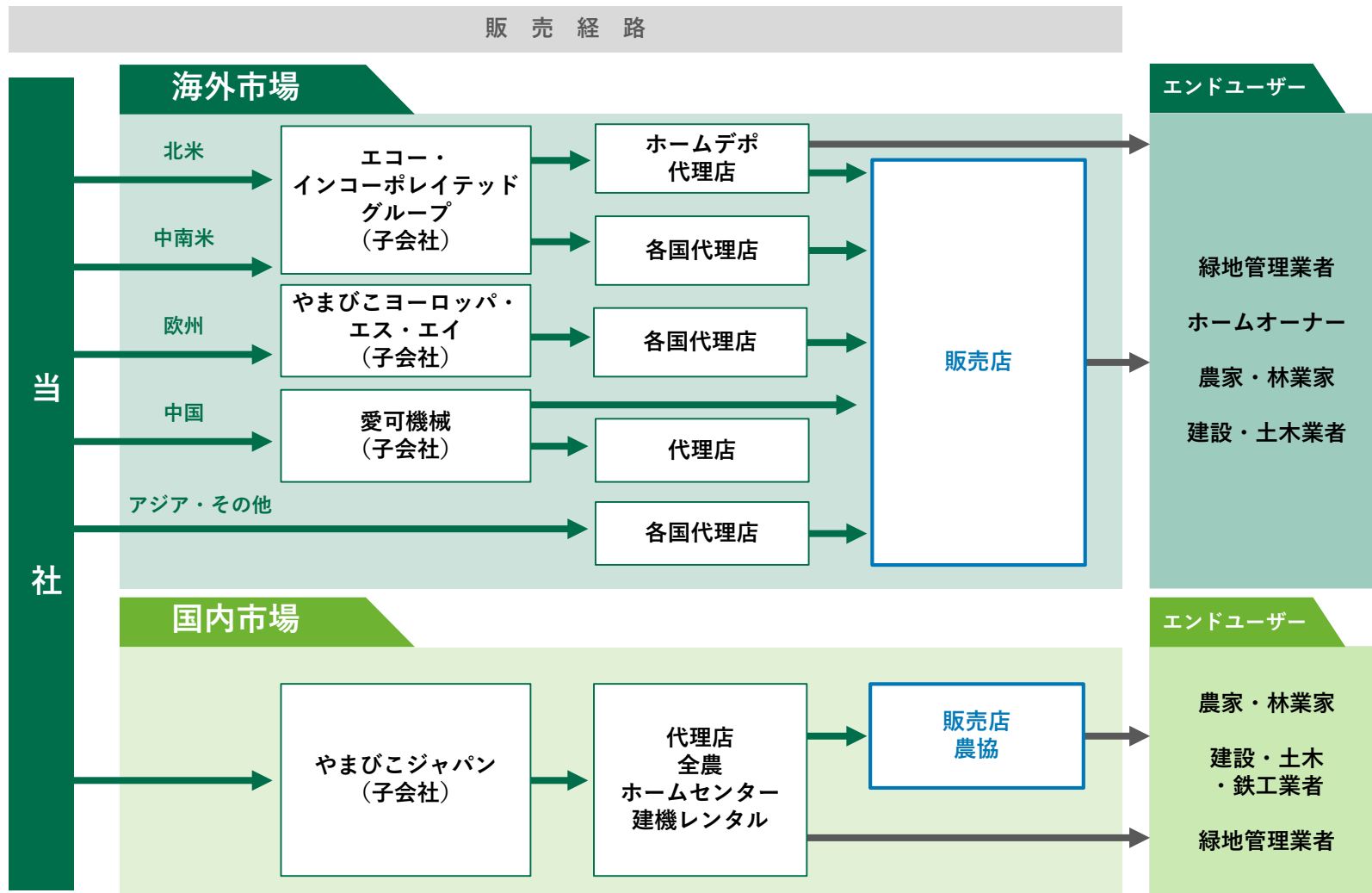
- 追浜工業株式会社 (横須賀市) : 電装部品
- 双伸工業株式会社 (青梅市) : 樹脂部品
- 株式会社ニューテック (長野市) : 鋳造部品
- やまびこエンジニアリング株式会社 (安芸高田市) : 板金加工



海外生産体制



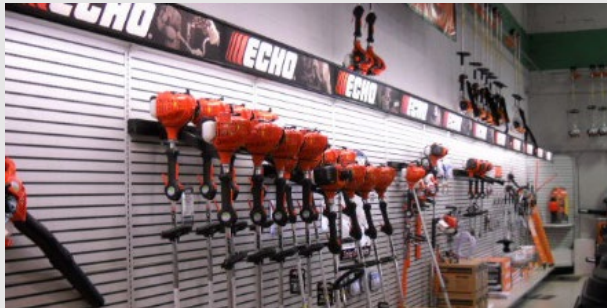
主な販売経路



海外市場での販売とユーザー

販売店

ホームセンター、農機具店、ハードウェアストア、販売代理店など



- 海外における販売店ではプロユーザーを意識した高付加価値製品群を取りそろえて対面販売
- ホームセンターにおいてはハイエンドホームユーザー向けに品揃え

エンドユーザー



緑地管理業者



ホームオーナー



農家・林業者



建設・土木業者

日本市場での販売とユーザー

販売店

農協、農機具店、建機レンタル会社、
ホームセンターなど



- プロユーザー向けには販売店や代理店と協力しながら展示会を実施し、実演や試乗を通じて販売
- 建設向けは、金物店や建機レンタル会社を通じて、個人ユーザーにはチェーン展開するホームセンターなどで販売

エンドユーザー



緑地管理業者



建設・土木・
鉄工業者



農家・林業家

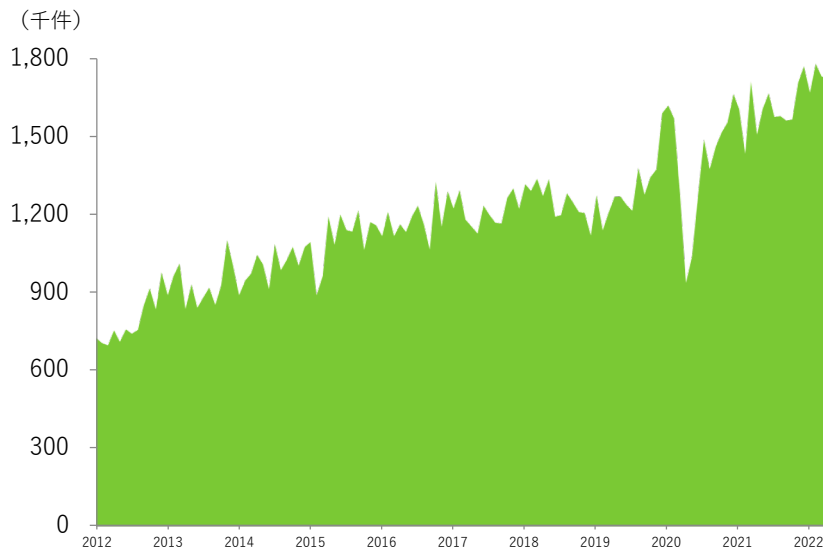
主なグループ会社の状況

	海外	小型屋外作業機械 (OPE)	農業用管理機械	一般産業用機械
生産販売		エコー・インコーポレイテッド やまびこヨーロッパ・エス・エイ 愛可機械	クレイリー・インダストリーズ	エコー・インコーポレイテッド
生産		クイック・プロダクツ・インク 新大華機械		やまびこベトナム
販売		ゴールデンイーグル ディストリビューティング		
	国内			
販売		やまびこジャパン		
生産		追浜工業 双伸工業		やまびこエンジニアリング

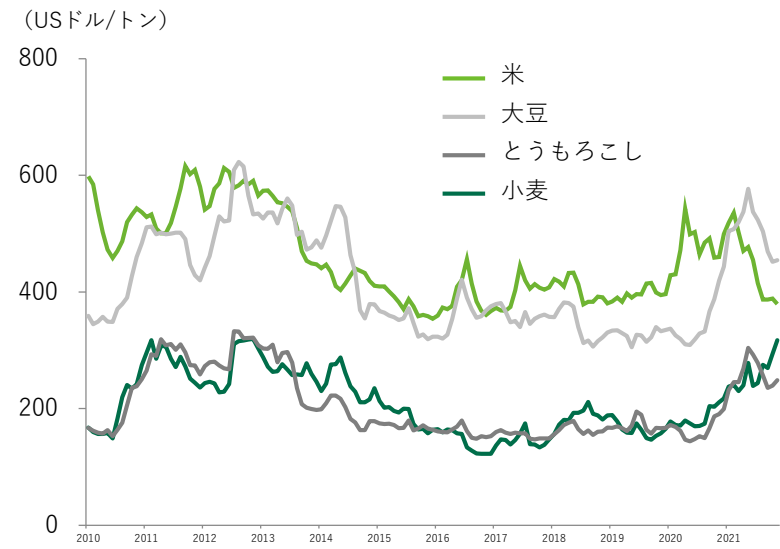
海外市場における関連指標等

事業	関連指標等
小型屋外作業機械 (OPE)	北米：住宅着工件数 等 南米：穀物価格 (大豆、とうもろこし、コーヒー) 等
農業用管理機械	米国：穀物価格 (大豆、とうもろこし) 等

米国住宅着工件数 (季節調整済年率換算値)



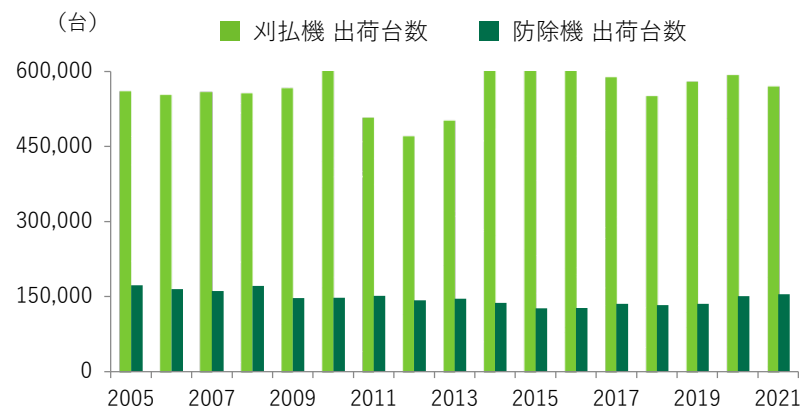
穀物価格



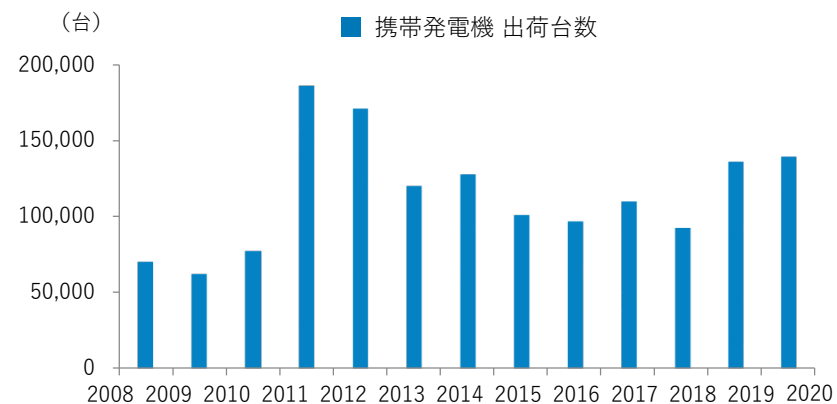
国内市場における関連指標等

事業	関連指標等
小型屋外作業機械（OPE）	（一社）日本農業機械工業会出荷実績（刈払機）、米価 等
農業用管理機械	（一社）日本農業機械工業会出荷実績（防除機）、米価 等
一般産業用機械	（一社）日本陸用内燃機関協会（携帯発電機）、 （一社）日本建設機械工業会出荷金額統計（その他建設機械）、 建設関連業等の動態調査報告、工作機械受注高 等

出荷実績



注：会員企業の入退会に伴い、2014年4月より報告会社数が変更。
 （防除機：7社→6社、刈払機：11社→12社）
 （一社）日本農業機械工業会出荷実績



（一社）日本陸用内燃機関協会携帯発電機研究会集計（3kVA以下）

この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、当社が計画・予測したものであります。実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものではありません。

お問い合わせ先

株式会社 やまびこ 経営企画部

〒198-8760 東京都青梅市末広町1-7-2

e-mail : ir6250@yamabiko-corp.co.jp